

自然調査法／生物調査法 大八木麻希	2年次	2単位
	前学期	選択

授業のねらい
20世紀後半の高度経済成長期の負の遺産として浮上してきた環境問題。21世紀には環境問題を改善する手法の確立や環境負荷を減らす産業の試みが行われている。その中で、環境そのものの現状把握として、生物調査を含めた環境調査が行われている。さまざまな開発に伴う自然環境についての生物調査は注目される分野であり、これらへの理解は社会環境へも応用的理解も有している。現代の問題に、生物調査法を通じて、幅広く対応できる人材を育成していきたい。

到達目標
本講義では、自然調査法についての理論及び実際の方法について、生物学・生態学の知識をふまえて学ぶ。そこで、自然調査法について、自身で柔軟的な視野で考え、科学的に理論を組み立てることが出来ることを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小レポート30%、試験70%
小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。

事前・事後学習
授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

地域環境論／環境特殊講義 千葉 賢	1年次	2単位
	前学期	選択

授業のねらい
現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。環境分野で活躍する学部卒業生も毎年、講師として招いている。専門家や先輩の話聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。

到達目標
毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性(自分の生活とどのように関わっているか)を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回=90点(優秀レポートには加点)して成績評価する。レポートを採点してフィードバックする。遅刻者は減点する。期末試験はない。

事前・事後学習
シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること(180分)。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス、生物調査法の概要
第2講 森林① 森林管理
第3講 森林② 植生調査
第4講 森林③ 樹木計測
第5講 森林④ 土壌生物・昆虫観察
第6講 森林⑤ 哺乳類足跡観察
第7講 海洋① 海洋モニタリング
第8講 海洋② 魚類調査
第9講 海洋③ 有孔虫分類
第10講 河川① 水生昆虫分類
第11講 河川② 生物学的水質判定法
第12講 湖沼① 植物プランクトン観察法
第13講 湖沼② 動物プランクトン観察法
第14講 湖沼③ 水生植物調査
第15講 干潟① ベントス調査
レポート

テキスト・教材(参考文献含む)
なし
参考文献
柴田英昭「生態学フィールド調査法シリーズ1 森林集水域の物質循環調査法」共立出版(2015)2,000円
小池伸介ほか「生態学フィールド調査法シリーズ9 大型陸上哺乳類の調査法」共立出版(2017)2,600円

担当者から一言
重要語句の暗記ではなく、多角的・柔軟的な科学的視点を持つという意識を持って取り組んでほしい。簡易な実習を実施予定。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。
地域の持続的発展のために貢献できる。

授業計画
(各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。)
第1講 ガイダンス、伊勢湾の海洋ゴミ問題と里山の環境問題、千葉
第2講 伊勢湾のマイクロプラスチック問題、大八木
第3講 竹林間伐材の有効利用、廣住
第4講 食品ロス、三重県担当者
第5講 四日市市のゴミ処理とリサイクル、四日市市担当者
第6講 再生可能エネルギーとLCA、吉見(外部講師)
第7講 再生可能エネルギーと省エネ、岩下(外部講師)
第8講 ESDとSDGs、寺田(外部講師)
第9講 三重県森林アカデミー、野々田(外部講師)
第10講 鈴鹿山脈のけものたち。ニホンカモシカはいま。橋本
第11講 北勢地域の獣害問題と対策、佐藤(外部講師)
第12講 伊勢湾の水産資源と水産養殖、三重県担当者
第13講 伊勢湾の水質環境とあさり、三重県担当者
第14講 若者の就農と農業塾、伊藤(外部講師)
第15講 福祉と農業、谷口(外部講師)

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。毎回の講義で資料を配布する。

担当者から一言
環境分野で活躍する専門家の話を聞くことが出来る貴重な機会です。話題を提供していただく講師の皆様感謝の気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。居眠りなど、市民の方々から学生のマナーが悪いと指摘を受けています。履修する人は、心がけてください。

地域防災 鬼頭 浩文	1 年次	2 単位
	前学期	選 択

授業のねらい
この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指す。この資格は、就職においても有利になる。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘する。
* 6月の週末3日間(18時間)は、外部からの受講生も参加する「防災士養成講座」に参加することをもって6週分の講義とする。
* 四日市大学の学生は、テキスト・受験料・登録費などの実費15,000円を負担してもらう。

到達目標
この講義を通して、災害時には復旧活動をリードできる人材になるのが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義で学んだことをまとめる小レポート5回、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果から、総合的に成績をつける。提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正して返却をする。

事前・事後学習
事前にテキストの要点を30分ほどかけて予習する。また、講義を録音して公開するので(全部で10時間ほど)、必ず1回は復習として聴き、理解を深める。また、6月の週末の演習で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験の1週間前に必ず復習をする。

地域連携特別講義 a 小林 慶太郎	1 年次	2 単位
	前学期	選 択

授業のねらい
食と観光に関して、東紀州地域における合宿型のフィールドワークを交えた体験型実習を行なう。観光地としての魅力発信や観光客向けのインフラ整備といった生活と観光の両立に向けた課題を理解するとともに、古くから親しまれてきた食文化をどのように継承し発展させていくかの考え方を身に着ける。主体的に考え、グループワークにおいて専門性の異なる他者と議論し、地域の社会人に対してインタビューを行なうといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。

到達目標
地域住民や社会人といった異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
グループワーク等への取組姿勢 60%
事後レポート 40%
※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。
※ グループワーク・フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。

事前・事後学習
熊野大花火の際には数多くの観光客が訪れる一方で冬季などの需要の少ない閑散期が存在するという熊野の観光業の現状・課題や、黒潮が運ぶ高温多湿な気候に育まれた魚介類や柑橘類などの熊野の多様な食文化の現状・課題などについて、事前に情報収集をし、考察を深めておく(36時間)。成果発表に向けた準備をグループの仲間とともに時間外に行なう(9時間)。

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材をめざします。

授業計画
1 4/12:ガイダンス:序論:いのちを自分で守る①
2 4/19:いのちを自分で守る②(小レポート①)
3 4/26:地域で活動する①
4 5/10:地域で活動する②(小レポート②)
5 5/17:災害発生のしくみを学ぶ(小レポート③)
6 5/24:災害に関わる情報を知る①
7 5/31:災害に関わる情報を知る②(小レポート④)
8 6/7:新たな減災や危機管理(小レポート⑤)
9 6/14:講義のまとめ
10 6/15(土)午前:近年の災害とその仕組み(講師:自衛官ほか)
11 6/15(土)午後:避難所運営訓練(講師:四日市東日本大震災支援の会)
12 6/16(日)午前:地域防災(講師:四日市市危機管理室職員)
13 6/16(日)午後:災害ボラセン運営(講師:四日市市社協職員)
14 6/22(土)午前:自分たちで地域を守る(講師:消防団・自主防災組織など)
15 6/22(土)午後:普通救命講習(講師:四日市市消防本部職員)
第10~15講の午後は、グループワークを含むアクティブ・ラーニングである。
★8月24日(土)午後に防災士試験を実施する。

テキスト・教材(参考文献含む)
『防災士教本』日本防災士機構
テキスト代は、実費負担¥15,000に含まれる。

担当者から一言
講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材をめざします。

授業計画
5月11日(@三重大学)
第1講 ガイダンス 課題解決の手法(講義+グループワーク)
第2講 ご当地グルメを活用したまちおこし
6月15日(@三重県総合博物館)
第3講 東紀州の生活と食(博物館見学)
第4講 三重県南部の食と歴史(講義+グループワーク)
8月28日~30日(合宿@熊野市)
第5講 フィールドワーク①(丸山千枚田・紀和鉱山)
第6講 フィールドワーク②(瀟峡・トロッコ列車)
第7講 熊野大花火と観光(講義)
第8講 熊野市山間部の観光(グループワーク)
第9講 フィールドワーク③(楯ヶ崎)
第10講 グループインタビュー@梶賀
第11講 グループインタビュー@二本島・新鹿
第12講 熊野市沿岸部の観光(グループワーク)
第13講 食と観光に関するグループインタビュー
第14講 成果発表に向けた取りまとめ(グループワーク)
9月9日(@三重大学)
第15講 食と観光に関する提案プレゼンテーション
期末試験(事後レポート)
※ 現地の状況等により内容変更の可能性があります

テキスト・教材(参考文献含む)
なし(必要に応じて資料等を配布する場合があります)。

担当者から一言
県内の他の高等教育機関との合同の授業になります。現地学習・レポート作成等、学生諸君には相応の負荷も掛かりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずですよ。他大学に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。

コミュニティ論 岩崎恭典	1年次	2単位
	後学期	選択

授業のねらい
この講義では、主として包括的な地縁組織として深く住民の生活に関わっている町内会・自治会(以下、町内会)を取り上げる。市町村合併終了後、狭域の自治を育む仕組みとして、町内会は再評価されている。しかし、その一方で、自治体行政の下請機関化した町内会を、そのまま、新しい自治の単位とすることについては、多くの危惧がある。そこで、講義では、町内会の歴史を辿り、問題点や課題を整理し、自治の単位としての「近隣政府」の可能性を追究し、実習を通じて、新たな地縁組織の必要性について理解する。

- 到達目標**
1. 地縁組織としての町内会の歴史的な役割を理解し、コミュニティとの違いを理解する。
 2. さらに、今後の地域社会のなかでの団体の果たすべき役割と個人としての関わり方を、
 3. 実際の町内会の運営を理解することにより知る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義への出席は前提である。定期試験45%、県内の実地調査による地域自治組織のレポートあるいは課題図書のリポート55%の割合で評価する。講義に際しては、「大福帳」を使用し、講義内容についての質疑応答を行う。

事前・事後学習
諸君が居住する地域で町内会・自治会がどのような状況にあるか、日常的に関心を持ってしておくように。レポートの題材となる場合もある。講義は、町内会の歴史の変遷を扱うことから、予習・復習は欠かせない。また、フィールドワークを実施する際には、十分な事前準備が必要となる。(1日30分)

地方議会論 松井真理子	2年次	2単位
	前学期	選択

授業のねらい
議会は多様な市民の声を代表し、自治体の重要な意思決定権も行う、きわめて重要な役割があることから、近年三重県議会、四日市市議会などで、全国に先駆けて議会改革に積極的に取り組まれています。この講義では、議会や議員についての基礎的な知識を修得するとともに、四日市市議会での議案への事前意見募集や議会報告会などに参加することを通じて、現場の議会改革最前線の動きを学びます。議会を身近に感じ、今日における地方議会の意義を理解することで、選挙への参加意欲の向上も図ります。

- 到達目標**
- 1 地方議会の仕組みと機能を理解する。
 - 2 地方議会と市民の生活の関係を理解する。
 - 3 議員を身近に感じ、選挙への参加意欲を高める。
 - 4 議会の機能を発揮するための議会改革の必要性とその取組内容を理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎講義時のミニレポート 30%
議会報告会のレポート 20%
定期試験 50%
毎講義時のミニレポートの質問については、次の授業で解説する。

事前・事後学習
(授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)
(授業後) 学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

授業の位置づけ
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。幅広い人間力を身につける。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス 現地調査プランの提起とレポートの詳細提示
 - 第2講 地域団体とは何か、町内会の現状と課題
 - 第3講 町内会の歴史 1
 - 第4講 町内会の歴史 2
 - 第5講 町内会の歴史 3
 - 第6講 町内会の展望 なぜ、今、近隣政府か
 - 第7講 事例研究に向けて 四日市市における町内会の概要について
 - 第8講 事例研究に向けて 大学近隣の町内会の現状について(四日市市内の町内会役員)
 - 第9講 事例研究 町内会の取り組み実習 11月中旬の土曜日あるいは日曜日を予定
 - 第10講 事例研究
 - 第11講 事例研究
 - 第12講 事例研究
 - 第13講 まとめ 1 事例研究 報告会
 - 第14講 まとめ 2 事例研究 報告会
 - 第15講 まとめ 3 近隣政府をつくるための住民団体の役割とは何か
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
なし、レジメと資料を配布する。

担当者から一言
町内会は、風土の賜物といわれるぐらい、地域によってそのあり方が違います。そこで、フィールドワークをしてもらいます。その日程は、土日が中心になりますが、参加は必須です。活発に活動されている地域の高齢者の方々と話してみてください。

授業の位置づけ
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス・地方議会の仕組み(1)
 - 第2講 地方議会の仕組み(2)
 - 第3講 地方議会選挙の動向
 - 第4講 選挙結果からみる地方議会
 - 第5講 地方議会と市民の生活
 - 第6講 若者と地方議会(グループワーク)
 - 第7講 議会改革総論
 - 第8講 四日市議会6月定例会議の議案とそれに対する意見提出について(グループワーク・プレゼンテーション)
 - 第9講 議会改革の実際(1)
 - 第10講 議会改革の実際(2)
 - 第11講 議会ウォッチャーから見た議会改革
 - 第12講 四日市市の議会改革
 - 第13講 四日市市議会報告会参加(夜間・実習)
 - 第14講 四日市市議会報告会の振り返り(グループワーク・プレゼンテーション)
 - 第15講 地方議会の議員になること(議員講話)・まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
毎回講義時に資料を配布します。

担当者から一言
地方議会の現場と連携した授業です。議会や議員及び選挙に興味を持ってほしいと思います。